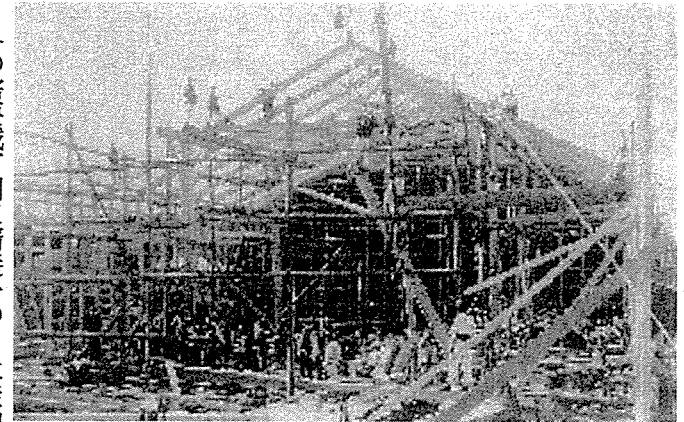


事業の柱育て時代に適応

及能(きょうのう)は1885(明治18)年、豊業を函館市内で創業して以来、時代の流れに応え不動産業や倉庫業、食品加工業を展開し、街に寄り添ってきた函館市内屈指の老舗です。

創業者の及能仁三郎は53(嘉永6)年、石川県で豊刺職人・太三郎の次男として生まれました。家業は長男



大正元年倉庫上棟式の様子

年、豊川町22の18の現在地に鉄筋コンクリート造、3階の本社社屋を建てました。

戦後は、初代仁三郎のひ孫に当たる4代目正二郎がビルの建設や冷蔵倉庫への転換など不動産・倉庫業の発展に尽力。96(平成8)年に長男正泰へ社長業のバトンを手渡します。

5代目の正泰社長は、倉庫に預かる水産物に着目。双方の取引で顧客とのつながりが一層深まると見て自社での水産物加工を新たな柱に育て、豊業では道内最大商圏の札幌市に営業所を出します。

冬の需要減打開に婿養子の2代目仁三郎が99(明治32)年に始めたのが土地や建物の賃貸。第2の柱、不動産業の

が継ぎ、自身も豊職人であった仁三郎は開拓が進む北海道に未来を求め、85(明治18)年、帆船に家財一切を詰め函館区西川(現在の函館市豊川町)に渡り豊業を始めました。度々の大火も質素節約で耐え、質屋を営む倉庫を構えるまでになりました。

1世紀
企業
②5及能
(函館市)

北海道の冬は厳しく、雪の訪れとともに普請は減り、豊の需要は安定しません。その中で養われた顧客重視の精神と関連業務への積極的な挑戦は脈々と受け継がれ、及能の土台となっています。

始まりです。物流拠点だった函館の地の利を生かし第3の柱、倉庫業も展開します。

1934(昭和9)年の函館大火は甚大で多数の貸家が焼失しましたが、3代目喜久二は災いを教訓に36(昭和11)

及能正泰社長

信頼関係で苦難乗り越える



「人口増加から人口減少へ、郊外化から都心回帰へと過去と逆のことが起きています。『不動産を売るな』が教えてくれたが、最近はお譲りすることも。固執せず時代に適応することが大切」と話し、「5本目の柱を見つけるのは次世代の仕事。そのために今の4業種が自立し苦境を越えられるよう磨き上げバトンを手渡したい」と、さらなる発展に土台づくりで応えます。